

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400201		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム グレース (東棟)		
所在地	奈良県生駒郡平群町大字越木塚336-1		
自己評価作成日	平成28年12月21日	評価結果市町村受理日	平成29年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2971400201-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成29年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東西両棟は山の中腹に立地しています。広々とした施設内のホールは、多種多様のボランティアさんが来てくださり入居者様の憩いの場となっています。テレビの前にはソファを置きゆったりと過ごしていただいています。またベランダ側にもソファを設置し外の景色を眺めながら気の合う者同士で座り、話も弾みます。事業所の開設も11年が経ち入居者様のADLが低下してきていますが、職員が自分たちで考えた理念を基にその人らしく暮らせるように支援しています。ご家族には定期的にお便りや現状報告をして、信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは理念を大切にしており、フロアごとに話し合い決めた理念は共通の目標を作ることで日々の実践に繋がっています。理念に沿って支援する中で疑問に思ったことや困ったことがあれば先延ばしすることなく、その場にいる職員で話し合い、結果は申し送りノートで共有しています。ホーム周辺に交流できる民家や学校等が無い中、職員の働きかけにより傾聴や似顔絵描き、手品、フラダンス、尺八等、頻回にボランティアの訪問があり、時には送迎もしながら利用者の楽しみを継続しています。また併設するデイサービスで行われるカラオケの際は訪れて利用者同士の交流を図っています。運営推進会議では家族以外にも町職員や地域包括支援センター職員、民生委員、老人会長、同業者等毎回多くの関係者の参加があり、様々な情報を得ながら運営に反映させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた5項目を来訪者や職員の目につく所に掲げ、常に意識するようにしている	2年前に管理者の交代を機に、職員間で意見を出し合い5項目からなるフロア毎の理念を作り上げ、玄関に掲示しています。またホームとして誰もがわかりやすい目標を立てることで日々の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長寿会や趣味のクラブ等のボランティアの来訪で交流をしている	ホームは山の中腹に位置し、近隣に民家や学校等もなく地域との交流が難しい状況にあります。がホームの働きかけにより傾聴や手品、フラダンス、尺八、似顔絵書き等の頻回なボランティアの訪問を受けています。併設するデイサービスでカラオケをする際は訪れて利用者同士の交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談で来訪されたり、電話での質問に答えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し現状報告を行い意見交換をしている	会議は利用者や家族、町担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、老人会長、近隣同業者等の参加を得て2か月毎に開催されています。会議ではホームから活動や研修報告がなされる他、参加者から多くの情報を得ています。参加者の意見を受け、検討事項では個人が特定できるような話し方をしないよう申し合わせをするなど運営に反映しています。会議録は郵送で家族にも報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき情報交換をしている。わからないことがあれば町の福祉課に聞くようにしている	町担当者は運営推進会議を通じて馴染みがあり、地域ケア会議に管理者が参加して意見交換を行っています。制度等わからない事があれば訪問したり電話で相談しています。また町の介護相談員の訪問を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全面を優先し自動ロックにしているがベランダなどには鍵をかけていない。2ユニットあるが自由に行き来できるようにしている。身体拘束をしないケアを行っている	県の研修に管理者が参加し、資料を職員に配布しています。言葉による制止は職員同士で注意し合い、管理者が気づいた場合は個別に注意しています。玄関は施錠していますが、ベランダやフロア間は自由に行き来し、利用者が外に出たい時には職員が付き添って散歩し気分転換を図っています。	

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の研修に参加し学習している。虐待が見過ごされない様に職員全員で注意を払っている。言葉使いは職員同士、その場で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている入居者はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を全て読み上げ理解していただくようにしている。何か解らないところがあればわかるように説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に要望等を伺い職員間で情報の共有を行い意見を出し合っている	家族の面会時に近況を報告するとともに意見を聞いたり、また年に一度アンケートを実施しています。家族の意見から寝たきりの利用者が併設施設の機械浴で入浴出来るようになったり、照明を明るくするなど改善しています。家族には毎月の便り以外にも半年ごとの変化を報告し、家族の安心に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員からの意見を聞くように心がけている	利用者は担当制とし、仕事面でも行事や衛生等担当職員を決め、何かあれば担当職員が中心となりその場にいる職員が集まって会議を開いています。入浴方法の検討では福祉用具の導入を行うなど、会議録も残して情報の共有に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に於いて人事考課制度構築の必要性と連動性を学び今後、取り入れを検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内等々、職員の育成に必要性のあるものはできる限り受講案内をしている		

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議などを通じネットワーク作りや相互間の情報交換等に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に家族や本人の話を傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学に来られた時にゆっくりと時間をかけ共感しながら話を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとの連携をとり家族とも話し合いその時に必要な支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物干し、洗濯もの置き、食器洗いは入居者様の楽しみとなっている。「何か手伝おうか」と声がかかることもある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の様子を伝えたり、季節ごとのお便りを出している。半年に1度は担当者より家族様に報告書を送らせていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由で家族や友人、知人にいつでも何時でも来て下さいと声かけしている。	親戚や友人、担当だった民生委員等の来訪があり、お茶を出して居室でゆっくり出来る様支援しています。馴染みの美容院へ送迎したり、自宅に利用者と共に衣類を取りに帰った際には近隣の方と立ち話することもあります。知人と教会へ出かけたり、家族と結婚式や法事等に出かける際は薬や着替えなどの準備を支援しています。	

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにはソファを置き気の合ったもの同士で座れるように配慮している。朝のラジオ体操では全員参加していただけるように声かけしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所された方に面会に行ったり、電話を頂いたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話、傾聴の中で把握したり職員からの情報を得るようにしている	入居前に自宅で利用者や家族から希望を聞いたり、関係機関に問い合わせ情報を収集し思いの把握に努め、アセスメントシートに記入し情報を共有しています。入居後は日々の関わりの中で思いを聞き、申し送りノートに記載したり、把握が困難な場合は表情から汲み取り、会議を開き本人本位に話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やケアマネ、家族から聞き取るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人のペースに合わせて過ごしていただいている。残存能力を可能な限り使って生活していただくように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子を把握し足りない情報は職員から聞き取り計画を作成している。モニタリングは毎月行っている	利用者や家族の希望をもとに介護計画を作成しています。通常担当職員が毎月モニタリング、評価し、それらをもとに計画作成担当者が6か月毎に計画を更新しています。家族の希望は電話で聞き、医師等の意見も反映した計画となっていますが、カンファレンス等の機会が無いのが現状です。	チームとして多くの職員の意見やアイデアが介護計画に反映されるよう、定期的なカンファレンスを開催されてははいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況記録に記入している。職員間連絡帳に医療面などを記入し情報を共有している		

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の高齢化によりニーズも増えてきている看取り介護などの支援に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴、尺八、フラダンス、長寿会など各方面からのボランティアにきていただき一緒に踊ったり歌ったりお話をしたり楽しく暮らせるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医と連携を取りながら支援している	かかりつけ医については入居時に説明し、以前のかかりつけ医に家族と共に受診している利用者もいます。利用者には2件の協力医の中から選んでもらい、定期や不定期に往診を受け、週一回の訪問歯科の往診もあります。法人の看護師が日々の健康管理に当たっています。家族とは口頭で受診の情報を伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は訪問看護に相談しより良い介護ができるように支援している 訪問看護師も相談しやすい体制を作ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞き本人の意思の確認をし医療との連携を行っている	入居の際には「医療についての希望」にサインをもらい、大まかな意向を聞いています。重度化した場合は医師の判断で家族に説明し方針を決定しています。訪問看護にアドバイスをもらいながら家族等の協力を得て看取り支援を行った経験もあり、職員は外部研修を受けたり内部で勉強会をするなど、スキルアップに努め支援に活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にはまずは担当医に連絡し指示を仰ぐようにしている		

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている	年に2回の内消防署指定の業者の指導を受けて避難訓練する場合は、法人と合同で昼間を想定して行っています。通報や避難誘導、初期消火等を行い、地域が無い場合併設施設が近隣を兼ねた避難先となり協力体制を築いています。また年度内にホーム独自で夜間を想定した避難訓練を予定しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも一人ひとりを大切に思い、誇りを傷つけないように接している	利用者の尊重は理念にも謳っている事柄でもあり、言葉遣いは特に配慮し、職員は互いに注意しながら不適切な対応はその都度注意しています。馴れ合いにならないように気をつけ、呼び方も名前ではなく苗字で呼んでいます。排泄介助時や入浴時などの羞恥への配慮や身振りで対応したり、周囲に聞こえないように配慮する事を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ソファを置いてゆったりと過ごしていただく中で何気なく話しかけ、思いや希望を言いやすい雰囲気になっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は大体決まっているが、一人ひとりのペースを優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を家族が持ってこられている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の厨房から届く 利用者様にはお盆やお箸を配って頂いたり後片付けを手伝ってもらっている	毎回温かい食事が法人から届いており、カレーの際は下処理された食材を使って職員が調理しています。利用者はコップ洗いやお盆の準備等、個々の力量に応じて行ってもらっています。寿司の出前を取ったり、おやつレクリエーションとして果物やクリームをトッピングして楽しんでいます。職員は食事介助をしながら利用者と会話し、和やかな食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握できるように食事量、水分量の記録を取っている		

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合った口腔ケアをしている また必要に応じて訪問歯科のケアを受けることができる		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりのパターンを知り自立にむけた支援をしている	重度の方以外は、排泄チェック表からパターンを把握し、個々に合った誘導によりトイレでの排泄を支援しています。入居後の様子を見て失敗がなくなれば布の下着に変更しています。変化があれば当日の職員で話し合い対応を変更し、申し送りノートで共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを提供したり、水分補給、ラジオ体操等で体を動かして便秘にならないように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴していただいている 拒否がある人には、毎日声かけをして気分の良いときに入浴していただくようにしている	週に2回は入浴出来る様支援し、希望があれば午後からの入浴にも対応しています。重度の方も福祉用具を利用し湯船に浸かってもらっています。拒否がある利用者には声掛けのタイミングを図り、時間を変えながら無理のない入浴を支援しています。また好みに応じたシャンプーやリンスを使ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は一人ひとりの生活習慣により時間帯が異なっている 休息もホールや自室で自由にできるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に薬と一緒に説明書も入れて用法などがすぐわかるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割をみつけ張り合いのある毎日を過ごせるように支援している		

グループホーム グレース（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出されたり、お花見 紅葉狩り、イチゴ狩りなどレクリエーションとして行っている	気候が良い時期は周辺を散歩しています。散歩に行けない日はベランダでお茶を飲んだり、日光浴を楽しみ気分転換を図ってもらっています。また行事として花見に出かけたり、足湯やいちご狩り、紅葉狩り等に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で管理されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの前とベランダ側にソファを置いて自由に座れる様に工夫している	玄関は利用者と職員の似顔絵色紙や雛人形や行事の際の写真が飾られています。広いリビングにソファや椅子を多く配して、利用者はそれぞれ気に入っている場所で大自然を眺めたり、寛いで過ごしています。マッサージチェアやリハビリ用の歩行パー等健康器具も置いています。天井のファンや加湿器、エアコン以外にも電気ストーブも設置し、温度や湿度調整に気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東西両棟の行き来を自由にして気の合った利用者同士で過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真を飾られたり仏壇を置かれたり自分のお気に入りの物を持ってこられている	洋室と障子のある和室があり、それぞれ洗面台やベッド、机、クローゼットが用意されており、和室にカーペットを敷いたり、好みや体調に応じて配置を変えています。居室には楓や檜、桜等木の名前が付けられており暖簾をかけるなど自室が分かる工夫もなされています。利用者は自宅より鏡台や仏壇、十字架、書道の道具等を持参し、落ち着ける空間作りを心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をあげ、トイレはわかりやすいようにトイレと表示している		